



第2580地区 東京豊島東ロータリークラブ

WEEKLY REPORT

創立/1986年2月19日 (会長)廣内 世英 (副会長)渡邊 裕之 (幹事)有我 信行
例会場/〒171-8505 東京都豊島区西池袋1-6-1 ホテルメトロポリタン TEL 03-3980-1111
事務所/〒171-0021 東京都豊島区西池袋2-29-14-101 TEL 03-3985-7577 FAX 03-3590-6644
HP <http://www.toshimah-rc.jp> E-mail info@toshimah-rc.jp

第 1306 回例会

2013 年 10 月 2 日

本日のプログラム

- 理事会 11:15 ~ 12:00
- 例会 12:30 ~ 13:45
- クラブフォーラム②(職業奉仕委員会)
- 卓話 職業奉仕ものがたり
- 地区職業奉仕委員会
- 海内 栄一氏(東京浅草中央RC)
- 紹介者 佐野明三郎会員

次回のプログラム

- 例会 12:30 ~ 13:30
- 卓話 今、米山奨学会に求められるもの
- 地区米山奨学委員会
- 田島 幸男氏(東京池袋西RC)
- 紹介者 今田 拓男会員

にて午後2時より開催される事が決定致しました事をお知らせします。台湾側の事情により開催時期が早まりました、尚、今後のスケジュールについて10月の理事会において検討し詳細を報告いたします。

🎵 今月のソングリーダー 滝澤 宏会員 🎵

10月のお祝い

【会員の誕生日】

平山 衛会員	12日
月井雅夫会員	13日
廣内世英会員	15日

【夫人の誕生日】

浅原洋子夫人	1日
有我久美子夫人	10日
島田正枝夫人	24日

【結婚記念日】

佐々木通博・道子ご夫妻	9日
滝澤 宏・千枝子ご夫妻	20日
時友雅行・珠衣ご夫妻	27日
稲川 一・早苗ご夫妻	29日

年間100%出席表彰

2年間皆出席

(2011年/9月~2013年/9月)

西島貞枝会員

先週の例会報告 2013年9月25日

会長報告

2014年3月開催が予定されておりました、日台ロータリー親善会議が1月26日(日)圓山大飯店

幹事報告

- ①東京池袋 RC より秋の夜間移動例会へのお知らせがございます。
10月30日(木) 17:30より椿山荘にて開催されます。
- ②東京浅草中央 RC 主催により10月12日(土)13日(日)両日、浅草神社境内において東北支援復興市が開催されます。
- ③10月30日ガバナー公式訪問に向かったの予行練習は本年開催致しません。10月23日移動夜間例会時に5大奉仕委員長と会長幹事が同一テーブルにおいて事前打合せを行います。
- ④10月23日移動夜間例会後には予定表にあるホームミーティングは行いません。改めて各班毎にご案内をいたします。
- ⑤11月11日(月)北分区16クラブ合同例会・IMはテーブルディスカッション方式で開催されます。昨日、事前準備会が開かれました。当クラブからは浅原・稲川・滝澤・月井各会員がテーブルマスターならびに書記という重責を快くお引受けいただきました。感謝申し上げます。
- ⑥9月22日(日)児童福祉法人錦華学院のお楽しみ会に廣内・渡邊・櫛田・榊原・有我各会員と村田さん・鈴木さんが参加しました。閉会後の後片付け奉仕活動も行き、職員さんや子ども達と気持ちの良い汗を流すことが出来ました。ご協力ありがとうございました。

災害に強い個人と社会を目指して

株式会社日本総合研究所 理事
鈴木 正敏氏



災害は、常に新しい顔でやってきます。一つとして同じ被害を与える災害はありません。東海や東京と違って大きな地震は来ないだろうと言われていた関西地区を阪神淡路大震災が襲いました。そこでは、不倒と言われた日本の誇る高架高速道路が脆くも倒壊しました。また家屋の一瞬の崩壊で、救助の暇のない内に多くの人命が失われることを知りました。倒壊の家屋から人を救い出したのは家族であり、近所の人であって、消防でも自衛隊でもありませんでした。中越、中越沖地震では、大企業と言えども、自然災害によって、その経営の屋台骨をも揺るがすこともある、ということを知りました。また、集落・町の単位で、孤立してしまい、救助そのものさえ、困難になる現実を知りました。東日本大震災では、生活の基盤である町そのものが一瞬のうちに消滅することを知らされました。我々の日々の営みは、これまでも、そうしてこれからも、このような未知の災禍を覚悟の上に成り立っていると考えなければなりません。

さて、そのような自然災害には、二つの厳しい摂理があります。

災害は、誰の身にも等しくやってきます。そうしてその場に居る人たちは等しくそれから免れることは出来ません。しかし、そこからもたらされる被害は、そこに居る全ての人々に等しく降りかかる訳ではありません。その重大な被害は、災害弱者と呼ばれる人々に集中的に発生します。避難を迅速に出来ない高齢者、若年者、心身にハンデを持つ人々あるいは災害情報を的確に把握することが難しい方々などです。例えば、住居の耐震化が、ある種の地震に対して極めて効果的で被害者の大幅な減少をもたらします。しかしそれが分かっているにもかかわらず、現実的な問題がそれを不可能にします。したがって、防災社会構築の中で、社会の被害を最小化するためには、これら被害が重大になることが予め予想される人々の被害を如何に減少させることがまず必要となります。災害にタフな社会、とは、まず、最も深刻な被害を被る分野の人々を社会的に支えることから始まるのです。しかしながら我々の社会は無尽蔵な資源を持っているわけではありません。社会の有限な資源の効率的活用を図って、被害最小化あるいは我々の社会が許容できる範囲内の被害に止めることつまり減災に取り組むことが重要になります。それが、一つ目です。

もう一つは、モノの回復・復旧が決して万能ではなく、それだけで人の復興がもたらされる訳ではない、ということです。巨大な津波防潮堤が作られ、岸壁が復旧され、工場が再建されても、そこに人が戻って、コミュニティが維持されていかなければ、人は復興しません。これまでの被災地の現状・今をもう一度見る必要があります。神戸長田区の再開発、奥尻島の漁港再興、三宅島の現状などです。多大な国費を投入し、復旧・復興をなしたとする被災地が、人を再び活性化させ、生きる場所として再興したのか、検証しなければなりません。復興がなされたかどうかは、そこに居る人々一人一人の視点で測られなければなりません。しかしながら、これまでの復興概念の悲しい現実がそこにあります。災害に遭い、色々な困難に立ち向かいながらも、それを乗り越えるためには、“折れない心”が必要です。そのためには、希望の見える“未来”が必要です。それを示し、支えになる社会が、まさに“災害にタフな社会”です。その一つの姿は、“災害に遭っても崩壊しないコミュニティ”です。これは、モノ依存ではなく、人とコミュニティに焦点を当てることでしか実現できません。

災害社会に生きることを意味を改めて考えることが今こそ必要だと思います。

■ゲスト

株式会社 日本総合研究所理事 鈴木 正敏様
ご紹介者 西島会員ご子息 西島 秀一様

■出席報告

会 員	出席参加 会員数	出席数	欠席数	出席率	9月11日分 修正出席率
33名	28名	22名	6名	78.57%	89.66%



ニコニコBOX

西島秀一様／本日はお招き頂き有難うござ居ます。
米倉未土里様／お誕生日にお祝いをいただきあり
がとうございます。お気遣いを頂けますことは
年を重ねる程嬉しいです。

ニコニコ累計

¥292,000-



奉仕活動

児童福祉法人錦華学院のお楽しみ会
9月22日(日)



帰国報告

青少年交換第48期派遣学生
末村 菜さん



スロバキアという小さなヨーロッパの真ん中にある小さな国について、ほとんど何も学ぶことができないまま、私は飛行機に乗り、そこから一年間の留学がはじまりました。

最初で最大の難関は、言葉でした。最初のホストファミリーは、英語が話せる訳ではなく、毎日試行錯誤で、一日がとても長く思えました。

スロバキア語の本が日本で見つけれなかった私にとって、唯一スロバキア語を勉強する方法は、同じ街にいる留学生と一緒に受ける、英語でのレッスンでした。

ですが、そのレッスンの英語にもついていけなかった私は、どうすればいいのかわからなくなってしまいました。そして、まずは英語に慣れるという決心をして、アメリカからの留学生と沢山話す決心をしました。

ホストファミリーからは、なぜスロバキアにいるのに英語を話すんだ、と怒られることもあり、うっとおしく思うこともありましたが、今思うと、いつも愛を持って接してくれました。お祭りに連れていってくれたり、私の趣味がダンスだというと、レッスンを探して連れていってくれました。

ダンスのレッスンでは、同じ趣味をもった色々な年代の人と、一緒に汗を流し、仲良くなることができました。

学校では、日本が大好きな双子の女の子がいつも私を助けてくれました。彼女たちはいつも、私に日本語の意味や伝統について質問をしてきたので、私も気兼ねなく、スロバキアについて色々なことを教えてもらうことができました。

ただ、私の通っていた学校は街一番の進学校だったこともあり、放課後クラスメイトは皆勉強や習い事で忙しく、遊びに行ったり来たりすることができませんでした。

なので放課後は、いつも留学生と一緒にショッピングや街探索に行きました。

留学生といる時間が長くなるうちに、英語が聞き取れるようになり、スロバキア語のレッスンもわかるようになったり、わからなかったところを留学生に後から教えてもらえるようになり、少しずつ、スロバキア語を学ぶことを楽しめるようになりました。

その頃には、ダンススクールのキャンプに参加させてもらい、沢山の子どもたちと仲良くなったり、他の街に住んでいる留学生とも仲良くなり、日本語を教えたり一緒に折り紙を折ったり、楽しいことが増えてゆきました。

ダンスの仲間と出会えたこと、留学生と出会えたことは、この留学のなかの大きな宝物です。ダンスの仲間とは、4時間以上もダンスについて語り合ったり、言葉はなくても一緒に踊ってわかりあったり、とても楽しい時間を過ごしました。留学生とは、悩みや日常などを沢山話し合い、親友と呼べる存在となったと思います。母国語で話さない親友ができたことは自分にとって大きな出来事の一つです。

そしてホストファミリーはいつも優しく見守ってくれていました。数えきれないくらいの素晴らしい出会いに溢れた一年間を過ごすことができ、本当に幸せでした。

豊島東ロータリークラブの皆様、本当にありがとうございました。